

ドイツ語所在動詞 *liegen* の使用を引き起こす要因

岡 部 亜 美

1. はじめに

ドイツ語においては、現実の物理空間における物体の所在を表すのに、*stehen* (英: stand)、*liegen* (英: lie) などの一連の動詞が用いられる。これらの動詞は、物体の形状や、それがどのように置かれているかなどに応じて使い分けられるといわれている。例えば以下 (1) のように、本が垂直に長くなるよう本棚に収まっていれば *stehen* が、机の上に水平に長くなるよう置かれていれば *liegen* が用いられる。

- (1) a. Das Buch steht im Regal. 本は本棚に (縦向きに) ある。¹
b. Das Buch liegt auf dem Tisch. 本は机の上に (横向きに) ある。

一方でこの規則に当てはまらない例もある。例えば、建物や地形といった動かせない物体は、物体が垂直に長いか、水平に長いかによらず、*stehen* と *liegen* と共起する可能性がある。以下の例は『エーミールと探偵たち』に出てくるクライト・ホテルの説明の一部であるが、同じホテルのことを述べているにもかかわらず、ホテルの所在を表現するのに *liegen* と *stehen* が共に用いられている。

- (2) Und am Nollendorfplatz *liegt*, wenn ich mich nicht zufällig irre, das Hotel, in dem verschiedene Personen der Geschichte zusammentreffen, ohne sich die Hand zu geben. Das Hotel kann aber auch am Wittenbergplatz *stehen*. Vielleicht sogar am Fehrbelliner Platz. Das heißt: ich weiß ganz genau, wo es *steht!*

(*Emil und die Detektive*, S. 18, 斜体執筆者)

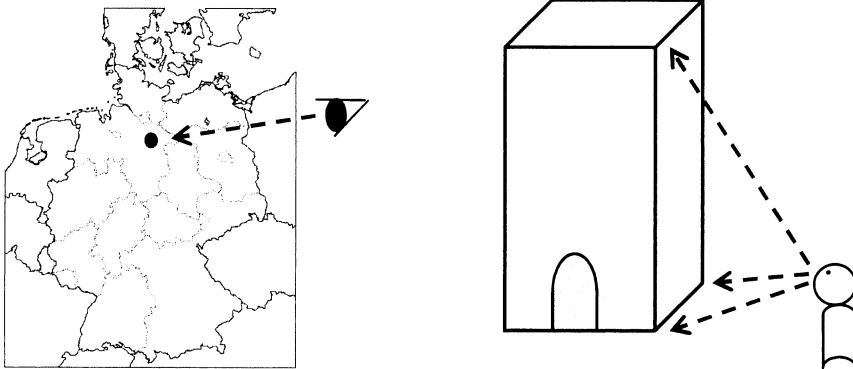
そして、ノレンドルフ広場には、ひょっとしてわたしの思いがちでなければ、このお話のいろいろな人物が出会いながら、握手をしないホテルがあります。このホテルは、ウィッテンベルク広場にあっても、いいでしょう。それどころか、フェーアベリナー広場にあってもいいでしょう。もっとも、わたしは、そのホテルがどこにあるか、はっきり知っています。 (『エーミールと探偵たち』, 32 頁)

このように、建物や地形の所在を表現する場合は、同一の物体、及び物理的に同一の状況に対して *stehen* と *liegen* どちらも用いることができる。このことから建物や地形の所在表現においては、本や瓶など、小さく動かせる物体における *stehen* 及び *liegen* の使い分けとは異なる規則によって、これらの動詞が使い分けられていると考えられる。このとき、特定の動詞の選択が物体の形状や置かれ方に拠らないのであれば、物体間（あるいは物体と物体の置かれる場所と）の位置関係あるいは相対的な大きさや、情報構造的な要因が動詞選択に影響を及ぼしていると予想される。

そこで本稿は、建物や地形と *stehen*、*liegen* が共起する場合に関する調査の一環として、Kirche（英：church）と Rathaus（英：town hall）がこれら動詞と共起する場合に関する調査を行った結果を報告する。新聞記事を対象としたコーパス調査によれば、建物も地形も *liegen* と共起するほうが多い。しかし、Kirche と Rathaus は執筆者が調べた限り *stehen* との共起のほうが多い珍しい例である。このように *stehen* を強く指向する語が *liegen* と共起する場合に特に焦点を当てて調査を行うことで、*liegen* との共起を強く促す要因を特定することが期待される。

2. 先行研究のまとめと問題提起

岡部（2015）は、建物と地形が *stehen* 及び *liegen* のどちらと共起するのかをコーパス調査から明らかにすることを試みた研究である。同研究はまず、Serra Borneto（1996）に基づき、*liegen* は物体が二次元的に把握されるとき、*stehen* は物体が三次元的に把握されるときに用いられると想定した。



二元的な把握
三次元的な把握
図1 二次元的な把握と三次元的な把握（岡部（2015: 74）より）

上の図からもわかるように、二次元的な把握が起こりやすいのは物体が所在する空間が大きいとき、三次元的な把握が起こりやすいのは物体が所在する空間が小さいときと考えら

れる。同研究は4種類の調査語に関するコーパス調査を基に、この予想を文例数の多寡の点で裏付けた一方、共起語や語順が動詞選択に影響を及ぼしている可能性があることも指摘した。例えば、liegen の場合は起点からの距離を示す表現中に現れることが多く、außerhalb (英: outside) や entfernt (英: away) との共起が多いという。さらに、liegen と stehen を比べると、特に物体が所在する空間が小さいときに、liegen は「主語 - 動詞 - 場所を表す語句 (以下、場所句)」という語順が多く、stehen は「場所句 - 動詞 - 主語」という語順が多いことも、例文数の多寡の点で示した。

同研究の問題点としては、上で指摘した要因を散発的に指摘しているだけであるという点が特に挙げられる。そこで本稿では、stehen と共起することの多い語が liegen と共起する場合に関する調査を行い、これらの要因の存在を改めて確認する。また、liegen の特徴といわれている「二次元的な把握」という枠内で諸要因を結びつけることを試みる。

3. コーパス調査

3.1 stehen 及び liegen との共起状況

執筆者は岡部 (2015) の調査を量的に支持するため、建物や地形に関する調査語を増やし、さらに IDS のドイツ語コーパス COSMAS II のなかで対象とする新聞コーパスを、岡部 (2015) で対象としていた „die Zeit“ に „Süddeutsche Zeitung“、„die tageszeitung“ を加えた3種類に増やした。この結果、以下表1からわかるように、そもそも調査語の多くは、stehen よりも liegen との共起を好むことがわかった。

調査語	liegen	stehen	計
Bahnhof (英: station)	93	23	116
Geschäft (英: shop)	75	14	89
Haus (英: house)	229	160	389
Hotel (英: hotel)	458	203	661
Kirche (英: church)	47	238	285
Laden (英: shop)	88	16	104
Museum (英: museum)	90	62	152
Rathaus (英: town hall)	27	60	87
Schloss (英: castle)	85	48	133
Stadion (英: stadium)	86	52	138
Berg (英: mountain)	82	28	110
Wald (英: forest)	38	34	72

表1 調査語と stehen と liegen との共起文例数

一方、Kirche と Rathaus においては、調査語全体の傾向に反して liegen よりも stehen の出現数のほうが多くなっている。以下では、このように stehen との共起数のほうが多い語が、それでもなお liegen と共起する例に特に焦点を当てる。これらの例の分析から、liegen の使用を強く引き起こす要因が何か特定することを目指す。

3.2 Kirche と liegen が共起する場合

Kirche は Rathaus と比べても、stehen との共起が特に多い（表 1 参照）。以下では、Kirche が liegen と共起した 47 例（表 2 参照）を対象に調査を行った結果を述べる。

	liegen	stehen	計
Zeit	8	60	68
Süddeutsche Zeitung	32	150	182
die tageszeitung	7	28	35
計	47	238	285

表 2

Kirche が liegen と共起する場合、先行研究が指摘していたように、Kirche は二次元平面上の一地点として解釈されていると考えられる場合が多い。例えば以下 (3) で挙げた文例では、Unglücksstelle（事故現場）にそもそも三次元的な広がりが見えにくく、地図上での抽象的な一点としての解釈を受けやすいと考えられる。結果として (3) では、Kirche のある地点と事故のあった地点を抽象的な平面上に位置づけて所在が表現されていると解釈することができる。

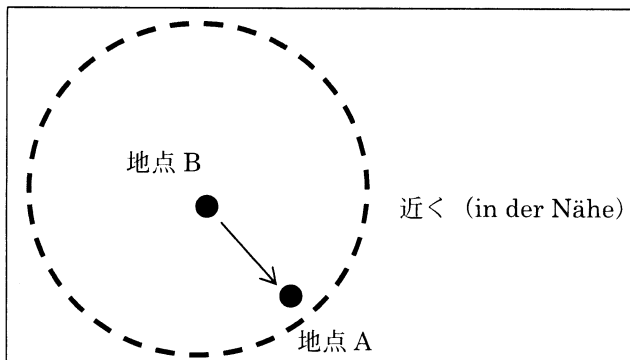


図 2 平面上での把握：„A liegt in der Nähe von B (A は B の近くにある) .“

- (3) Die Kirche liegt in der Nähe der Unglücksstelle. 教会は事故現場の近くにある。
 (Süddeutsche Zeitung, 05.01.2006, Die Trauer nicht in sich hineinfressen)

この他に、地点としての解釈が顕著と思われるのは、建物間の距離の表現²や複数の建物（や物体）を列挙する表現である。前者の場合は、岡部（2015）で指摘したように、共起語として *entfernt* や *außerhalb* が現れることが多い。

(4) a. Die Kirche liegt nur einen Kilometer von der US-Botschaft entfernt.

教会はアメリカ合衆国大使館から僅か 1 キロ離れたところにある。

(Süddeutsche Zeitung, 19.03.2002, Kommission soll Attentat in Pakistan aufklären)

b. Die Kirche Johannes des Theologen von Kaneo liegt etwas außerhalb der Altstadt auf einer felsigen Halbinsel hoch über dem See.

カネオの聖ヨハネ教会は旧市街の少し外、海に高く突き出た岩の岬の上にある。

(die tageszeitung, 29.07.2000, Ressort: Reise; Ein Stück Meer in den Bergen)

以下の例のように *stadtauswärts* といった語が共起している場合も、距離を表現する場合に含めることができるだろう。

(5) Die 1708 geweihte Kirche liegt etwa fünf Kilometer stadtauswärts inmitten der charakteristischen Weindörfer- und Villenlandschaft Loschwitz.

1708 年に聖別された教会は、市外およそ 5 キロ、特徴的なワイン村、屋敷風景であるロシュヴィッツのなかにある。

(Süddeutsche Zeitung, 14.02.1994, Gedenken an die Brandnacht)

さらに、川やトンネルなどの線状の物体沿いにあるときも、このような距離の表現の派生例と考えることができるかもしれない。線状の物体沿いにあるという表現は、距離を表現しているのではないが、どちらも、建物の位置をある線上の地点として解釈しているという点で類似していると思う。

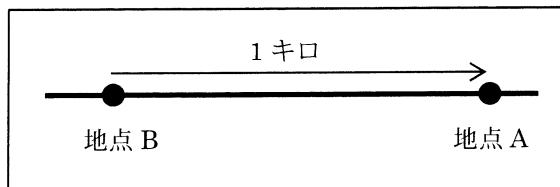


図3 距離の表現: „A ist einen Kilometer von B entfernt (A は B から 1 キロ離れている).“

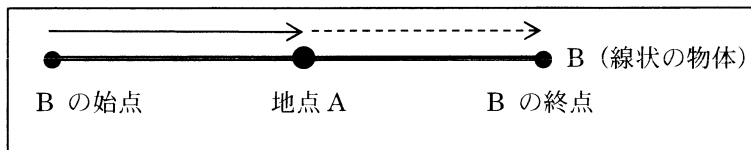


図4 距離の表現の派生例（線状の物体沿いの位置表現）：

„A ist an B (AはB沿いにある) .“

- (6) Die Kirche liegt am Lincoln Tunnel. 教会はリンカーン・トンネル沿いにある。
(Süddeutsche Zeitung, 22.09.2001, ROM1; GerhardWaldherr)

Kirche を含む複数の物体が列挙されているときは、いわゆるリスト存在文 (vgl. 熊本 (2001)) の一種と考えることができる。つまり、諸地点のリストを上から読み上げているような形式である。

- (7) Zwischen den Gebäuden liegen sechs Kitas, drei Kirchen, eine Bücherei, ein Jugendzentrum, vier Schulen und immer wieder Grünanlagen und Spielplätze.
建物の間には、託児所が6つ、教会が3つ、パン屋が1つ、青少年センターが1つ、学校が4つ、そしていくつもの緑地、子供の遊び場がある。
(die tageszeitung, 24.10.2006, Die, die nach unten schauen)

また、以下の例はこの一文で地点を列挙しているのではないが、記事全体で地点を列挙しているため、liegen が選択されたと考えることができる。

- (8) Kurz vor Magdalene Bridge liegt eine Kirche, St. Clement's, umgeben von einem jener Friedhöfe,(...).
マグダレーン橋の少し手前には教会、聖クレメント教会があり、遠いほうの墓地の1つに囲まれている (…).
(Die Zeit (Online-Ausgabe), 19.12.2000; Bring mir den Kopf von Cromwell!)

なお語順については、47例中26例が「主語 - 動詞 - 場所句」にあたるという結果になった。所在場所の小さい32例中に限れば、「主語 - 動詞 - 場所句」の語順になるのが、22例と70%近くにのぼる³⁾。一方、以下表3からもわかるように、所在場所が大きい場合は、好まれる語順が「場所句 - 動詞 - 主語」となっており、一概に liegen と「主語 - 動詞 - 場所句」という語順を結びつけることができないこともわかる。

	「主語 - 動詞 - 場所句」	「場所句 - 動詞 - 主語」
所在場所が小さい	22	10
所在場所が大きい	4	11

表3 所在場所の大小と語順の関係 (Kirche の場合)

また、今回の例の中では珍しいが、比喻表現中で現れる語との関係で *liegen* の使用が促されたと考えられる例もある。以下 (9) の例には「船のように (*wie ein Schiff*)」という比喻が現れているが、船は所在動詞として *liegen* をとる。このため、以下の (9) では特に *liegen* の使用が喚起されやすかったと考えられる。

(9) Diese größte aller Kirchen der Backsteingotik liegt *wie ein Schiff* inmitten der engen Häuserzeilen, (...).

全てのレンガ造りのゴシック教会の中で最も大きいこの教会は、船のように、密な家並みの中にある。

(Süddeutsche Zeitung, 01.06.1993, Nur nachts ist Danzig wieder Danzig, 斜体執筆者)

全体として、Kirche が *liegen* と共起するのは、教会のある位置を二次元平面上や線上の一地点、あるいはリストの一項目として解釈しているときであることがわかった。また、このような解釈を特に引き起こすのは距離の表現と、諸項目を列挙する表現である。語順については、岡部 (2015) で指摘されていた傾向が確かめられる結果となった。しかし、語順と、距離やリストの表現とのつながりについては、本調査からははっきりとした傾向を確認することはできなかった。

3.3 Rathaus と *liegen* が共起する場合

本調査で Kirche 以外に唯一 *stehen* との共起のほうが多かったのが、Rathaus である。以下、表4では、新聞ごとの出現数を挙げた。

	<i>liegen</i>	<i>stehen</i>	計
Zeit	5	7	12
Süddeutsche Zeitung	12	41	53
die tageszeitung	10	12	22
計	27	60	87

表4

Rathaus の場合も、Kirche 同様、地点としての解釈が起こると考えられる距離の表現、リストの表現において liegen の出現がみられた。

(10) a. Hotel und Rathaus liegen kaum 50 Meter auseinander.

ホテルと市役所は互いに 50 メートル弱のところにある。

(Süddeutsche Zeitung, 11.08.2006, Eine Immobilie, die heftig bewegt)

b. Im Schatten der Berge lagen Rathaus und Kirche, Schule und Kraftwerk.

山影には市役所と教会、学校と発電所があった。

(Die Zeit (Online-Ausgabe), 21.11.2013, Licht aus. Spot an)

また、何かの圏内にあることを表現する場合にも、liegen が出現している。これは、(11a) のような危険区域 (Rote Zone) や (11b) のような歩行者天国の範囲全体を、地図上で抽象的に把握し、その範囲中の一地点として建物を位置づけているためと考えられる。Kirche の例で挙げた平面上の抽象的な一地点の表現に近い例だろう ((3)、図 2 参照)。

(11) a. Das Rathaus liegt in der „Roten Zone“, die von Spezialisten wie dem Feuerwehrmann Perluzzi gesperrt worden ist und streng kontrolliert wird.

市役所は、消防士ペルルツィのような専門家によって封鎖され、厳しく監視されている「危険区域」の中にある。

(die tageszeitung, 09.07.2012, Ein Riss im Land)

b. Das Konstanzer Rathaus liegt in der Fußgängerzone (...).

コンスタンツの市役所は歩行者天国の中にある (...).

(die tageszeitung, 15.11.2012, Der richtige Mann der falschen Partei)

さらに以下の例では、直後の文に stehen が現れたため、同じ動詞の使用を避け、liegen が出現したと動機づけることができる。

(12) Gleich neben dem Park *liegt* das Rathaus, darin lange Gänge mit roten Teppichen.

Vor der Pass- und Visastelle *stehen* die Leute bis in den Innenhof, (...).

公園のすぐ横には市役所があり、その中には赤いじゅうたんを敷いた長い通路がある。旅券、ピザ部局の前には、人々が中庭に至るまで行列をなしており、(...).

(Süddeutsche Zeitung, 22.03.2010, S. 37; Immer nie daheim, 斜体執筆者)

語順に関しては、27 例中 18 例が「主語 - 動詞 - 場所句」という語順となっている。また所在場所の小さい 22 例のうちでは、同語順が 15 例と Kirche 同様 70% 近くにのぼる。

ただ、所在場所の大小にかかわらず、「主語 - 動詞 - 場所句」という語順が好まれるという点が Kirche とは異なる。しかし、所在場所が大きい場合の例が5例と非常に少ないので、この点について明言はできない。

	「主語 - 動詞 - 場所句」	「場所句 - 動詞 - 主語」
所在場所が小さい	15	7
所在場所が大きい	3	2

表 5 所在場所の大小と語順の関係 (Rathaus の場合)

以上のように、liegen を用いて Rathaus の所在を表現する場合も、Kirche の所在を表現するとき同様、距離やリストの表現中で同動詞が出現することがわかった。また、ある圏内の一地点として Rathaus の所在を表現する例があったが、これは 3.2 で指摘した、抽象的な一地点として建物の所在を表現する場合と通じる。語順については、Kirche と同様の結果が得られた半面、所在場所が大きい場合については検討の余地のある結果となった。

4. 考察

上では 2 種類の建物を対象として、liegen の使用を動機づける要因についてコーパス調査を行ったが、両調査の結果は非常に類似している。まとめると、平面上、線上の一地点として建物の所在を表現するとき、つまり距離を表現するときや、何かの区域内に建物を位置づけるとき、及びリストの項目として建物の位置を表現するときに liegen が用いられているといえる。これは、先行研究で指摘されている「二次元的な把握」を、より詳細に言い換えたかたちになるだろう。また、修辭的・文体的な要因がかかわっているように思われる例もある。

一方で語順については、先行研究の指摘を支持する結果は得られたが、上で述べたような二次元性との関連は明らかにならなかった。この点については、liegen の使用を促す要因間の関係性という観点から、より詳しい調査が必要である。

また、今回指摘した liegen の使用を動機づける要因は、絶対的なものではない。例えば、entfernt は距離の表現中に現れる典型的な表現であり、本調査でも liegen と共起する例が数多くみられたが、以下 (13) のように、stehen と共起する例もある。

(13) Nur wenige Meter von der Kathedrale und den Puppen *entfernt steht* das Rathaus von San Cristobal, (...).

大聖堂と人形から僅か数キロ離れたところにサン・クリストバルの市役所がある、(…)

(Süddeutsche Zeitung, 26.11.1994, Ein Bischof wie ein Boxer, 斜体執筆)

これを踏まえると、先に述べた要因は、いずれも単独では *liegen* の使用を絶対的に引き起こすものではなく、いくつかの要因が結びつくことで初めて *liegen* の使用を強く動機づけるようになると予想される。これもまた、上述のように、要因間の関係性の調査が必要であることを再確認するものである。

5. まとめと今後の展望

本稿では、*stehen* との共起が好まれる語が *liegen* と共起している例を調査することで、*liegen* の使用を強く促す要因を特定することを試みた。具体的には、抽象的な空間中の一地点として、あるいはリスト中の一項目として建物の所在を表現するときに、*liegen* が現れていることを指摘した。一方で、要因間の関係性、特に語順という要因とその他の要因との関係については、本稿では十分に明らかにできなかった。*stehen* との比較調査も含め、本稿の結果を今後も様々な調査で裏付けていきたい。

注

- 1 本稿のドイツ語に対応する日本語訳は、典拠のない限り全て執筆者によるものである。
- 2 なお、(3) で挙げた例は、距離の表現としての特徴も備えているといえるだろう。
- 3 所在場所の大小については、岡部（2015）同様、町以下の大きさの場所、あるいは存在物との関連で建物の位置を表現するときは「所在場所が小さい場合」、町より大きいものとの関連で表現するときは「所在場所が大きい場合」とした。

参考文献

- 熊本千明（2001）「リスト存在文の解釈について」．『佐賀大学文化教育学部研究論文集』6 (1). 111-127.
- 岡部亜美（2015）「ドイツ語存在表現における動詞の選択—地理、地形に関する表現を対象に—」．『言語科学論集 21』. 59-84.
- Serra Borneto, Carlo (1996): “Liegen and stehen in German: a study in horizontality and verticality”. In: Eugene H. Casad (ed.) *Cognitive Linguistics in the Redwoods: The expansion of a New Paradigm*. 459-506. Berlin and New York. Mouton de Gruyter.

コーパス

IDS Mannheim, COSMAS II

引用文献

- Emil und die Ditektive*. Erich Kästner. Cecilie Dressler Verlag, Hamburg Atrium Verlag: Zürich. 1935.
- 『エーミールと探偵たち』(=ケストナー少年文学全集1). エーリッヒ・ケストナー著. 高橋健二訳. 岩波書店. 1962.